

網走かわまちづくり

計画書

平成 28 年 2 月

網走市

市町村及び河川の概要

1. 市町村等の概要

①都道府県名 北海道

②市町村名 網走市

③人口 37,309 人（平成 28 年 1 月末現在）

④面積 470.90km²

⑤市の特色

網走市は、世界自然遺産の知床や阿寒、大雪山の 3 つの国立公園に囲まれた網走国定公園の中心に位置しています。市街地近くには、知床連山を眺望できる名勝天都山があり、緑豊かな市街地を形成しています。また、新鮮な魚介類の宝庫であるオホーツク海や市街地を貫流する網走川、ラムサール条約登録湿地の瀧渚湖等が織りなす水と緑の豊かな自然景観を有しています。網走市内ではカヌー、釣り、野鳥観察、ウォーキング、サイクリング、スノーモービル、四輪バギー等、四季を通じて様々な遊びが気軽に楽しめるほか、四季折々の景観スポットが多数点在しています。

網走市の畑作物生産額は約 102 億円で、主な畑作物 3 品は、麦類・馬鈴薯・甜菜となっています。麦類は「小麦粉・ビール」、馬鈴薯は「でんぷん」、甜菜は「砂糖」の原料となっています。また、網走港には、オホーツク管内の小麦が集まる小麦集出荷施設があります。畜産物生産額は約 179 億円で、主に牛・豚・鶏が飼育されています。肉牛は「オホーツクあばしり和牛」、豚は「知床ポーク」、鶏は「知床どり」の名称でブランド化を進めています。また、世界で 2 番目に大きな鳥「エミュー」を日本で一番多く飼育しており、地域の新産業創出を目指しています。

流水や森林等の働きにより、栄養豊かな網走の海や湖は豊富で多様な海の恵みをもたらしています。漁獲量は約 6 万 2 千トン、生産額は約 149 億円で、ホタテ、サケ、スケトウダラ、カラフトマス、シジミが多くを占めており、網走市では「活き粋き 7 珍」のブランド化を進めています。

網走市内には博物館「網走監獄」等の観光地があり、網走川沿いには、みなと観光交流センター（道の駅「流水街道網走」）やモヨロ貝塚館等の観光施設、オホーツク・文化交流センター（エコセンター 2000）や大曲湖畔園地等の交流施設が点在しています。



流水観光砕氷船おーろと
知床連山



キンキ
（活き粋き 7 珍）



博物館「網走監獄」

2. 市内の河川の概要

①主な河川

・網走川（一級河川網走川水系、流域面積 1,380km²）

網走川は、その源を阿寒山系の阿幌岳に発し、山間部を流下し、美幌町を貫流、大空町において網走湖に至り、網走湖から網走市街地を経てオホーツク海に注いでいます。

全国でも高い漁獲量を誇るシジミやワカサギ等を対象とした内水面漁業が網走湖を中心に行われる一方、豊かな自然とすぐれた景観、水面を利用したアウトドアスポーツが盛んで、湖面が結氷する冬季には湖上でワカサギ釣りが楽しめ、多くの釣り客で賑わっています。

また、網走川沿いの市街地周辺には、公園や散策路等が整備されており、地域住民及び観光客に利用されています。



網走川

②河川と市町村や民間事業者との関わり

網走市は網走川の両岸の扇状地にまちをつくって発展し、その後、網走川河口付近を中心に宅地が拡大したこともあり、網走川は市民の生活の中心となっています。

7月下旬に網走川河口部に面した「みなと観光交流センター（道の駅「流水街道網走」）」を会場に開催される「道の駅夕市まつり」や「花火大会」、「オホーツク・文化交流センター（エコセンター2000）」に隣接した網走川河畔に「網走川水辺プラザ整備事業」で整備された緑地で行われる「網走サマーイルミネーション」等があり、網走川は周辺地域の社会・文化と深い結びつきを持っています。

また、生活の基礎や歴史、文化や風土を形成してきた網走川の恵みを活かしつつ、自然とのふれあい、釣り等の趣味、イベント等の河川利用、環境学習の場等として安全に活用できるよう、地域の活性化に寄与する場の整備に努めています。



道の駅夕市まつり



網走サマーイルミネーション

③これまで実施済みの関連施策

・オホーツク文化交流センター建設事業（H11～H12）

市民の生涯にわたる学習の促進及び芸術文化の振興を図り、豊かな地域社会の形成に寄与するために、オホーツク・文化交流センター（エコセンター2000）を整備しました。地域活動、社会教育活動の拠点となっています。



オホーツク・文化交流センター
（エコセンター2000）

・みなと観光交流センター整備事業（H11～H21）

観光客への情報発信やイベントを通じた市民と観光客の交流により、古くから漁業施設として利用されている網走港川筋地区の活性化を図るため、みなと観光交流センター（道の駅「流水街道網走」）を整備しました。夏期は地元の農水産品の拡張販売スペース、休憩場、キッズコーナーを基本に、イベント広場としても利用しています。また、網走川に面して設置したウッドデッキは、冬期は流水観光砕氷船「おーら」の乗船デッキとしても利用しています。



みなと観光交流センター
（道の駅「流水街道網走」）

・網走川水辺プラザ整備事業（H12～H17）

市民及び来訪者が網走川河畔で憩い、水に親しめるよう交流広場や安全に利用できるよう緩傾斜護岸を整備しました。多くの市民が利用する「オホーツク・文化交流センター（エコセンター2000）」に隣接しており、「網走サマーイルミネーション」等のイベントにも利用されています。



水辺プラザ

・網走港（モヨロ地区）緑地整備事業（H21～）

道の駅対岸へ網走川を中心として市民や観光客が憩いの場として楽しむことのできる親水緑地の整備を進めています。緑地下流域にあるモヨロ貝塚館は平成25年5月にリニューアルオープンし、市民をはじめ多くの観光客に楽しまれています。



モヨロ貝塚館

・観光園地環境整備事業（H26～H27）

大曲湖畔園地は、市民や観光客が農地や河畔林、湿地帯、水辺などの自然環境を活用した体験や学習ができる体験学習型フィールドとして整備を進めています。恵まれた自然環境を活かして、市民の憩いの場、コミュニティビジネス形成の場、滞在型観光メニュー提供の場を創出していきます。



大曲湖畔園地

④市民や民間事業者による河川利活用状況

- ・ 網走川の河川敷は毎年「オホーツクあばしりツーデーマーチ」が開催されており、「海」「森」「湖」に囲まれた網走国定公園を中心としたコースを歩くことができ、オホーツクの自然と味覚を楽しむ大会として多くの参加者に親しまれています。
- ・ 網走川沿いの河川管理用通路（散策路）の一部はサイクリングロードになっており、サイクリングを楽しむ光景が見られます。
- ・ 夏には「網走サマーイルミネーション」が開催されており、野外コンサートやビアガーデンのほか、花火大会の観覧場所としても多くの市民に利用されています。
- ・ 市民や地域の NPO 等と河川管理者が連携しながら、河川愛護月間に合わせた網走川流域一斉清掃事業の一環である市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいます。



オホーツクあばしり
ツーデーマーチ



オホーツクサイクリング



花火大会
(あばしりオホーツク夏まつり)



地元小学生による清掃活動



水生生物の観察会

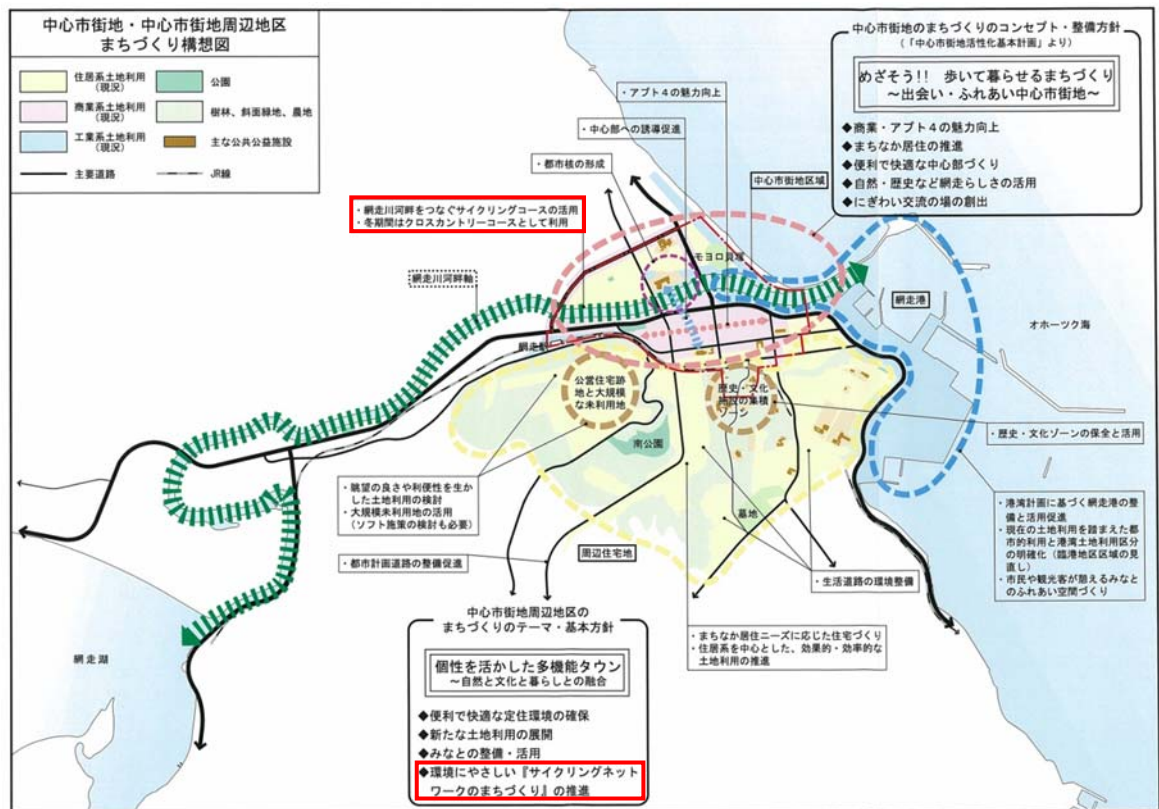
- ・ 一方、網走川沿いの施設間の観光動線が橋等で分断されており、アクセスが良好ではありません。現在、観光に係る多くの取組みが行われていますが、観光スポット個別・単体での活動となっており、継続的な取り組みに繋がっていません。また、経年的な劣化により整備すべき施設が多数あります。網走市の観光入込客数は年間 120～180 万人ですが年々減少傾向にあり、周辺の地域経済への影響が懸念されます。
- ・ こうした観光面の問題点・課題を解決し、「オホーツクブランド」を生かした地域の魅力アップによる活性化を図るためには、観光振興やまちづくりにおける農林水産業等の多様な産業との連携や市民参画が不可欠となっています。
- ・ また、網走川沿いの一部区間では階段護岸が整備されており、大きな段差により高齢者や障害者が容易に水辺に近づくことができず、親水性が良好ではありません。
- ・ 川沿いの賑わいを創出し親水性を向上させるためには、水辺までのアプローチを容易にし、様々な人が水辺に近づいて川とふれあい親しむことができる環境を整備することが不可欠となっています。

水辺とまちづくりに関する基本方針

網走市では、「網走市総合計画（2008～2017）」に基づき、地域資源を活かし網走観光の魅力をさらに高めるとともに、体験や滞在を楽しむ観光を推進し、観光客の拡充に努めています。ドライブ・サイクリング・ウォーキングの観光ルート整備を行い、観光客受入環境の充実を図っているところです。また、「網走市都市計画マスタープラン」に基づき、環境にやさしい「サイクリングネットワークのまちづくり」を目指して、網走川沿いのサイクリングロードについて、サイクリングやウォーキングをはじめとした日常的なレクリエーション空間としての積極的な活用を推進しています。また、平成26年4月に「網走市観光振興計画2014」を策定し、網走川河口付近に位置する観光・交流施設のネットワーク化を図り、自然と共生した観光利用を目指しています。

こうした取り組みの中で、特にかわまちが一体となった観光振興や親水空間創出の具体化にあたっては、「かわまちづくり事業」として、市民と市、河川管理者が協働し、関係機関等の支援を得ながら推進していきます。具体的には、網走川沿いの河川管理用通路（散策路）を活用し、観光・交流施設を動線で結ぶことにより施設利用の増大を図るとともに、ウォーキング・サイクリングコースやイベントスペースとして利用することで、網走川沿いの賑わいを創出し、地域の活性化を目指します。

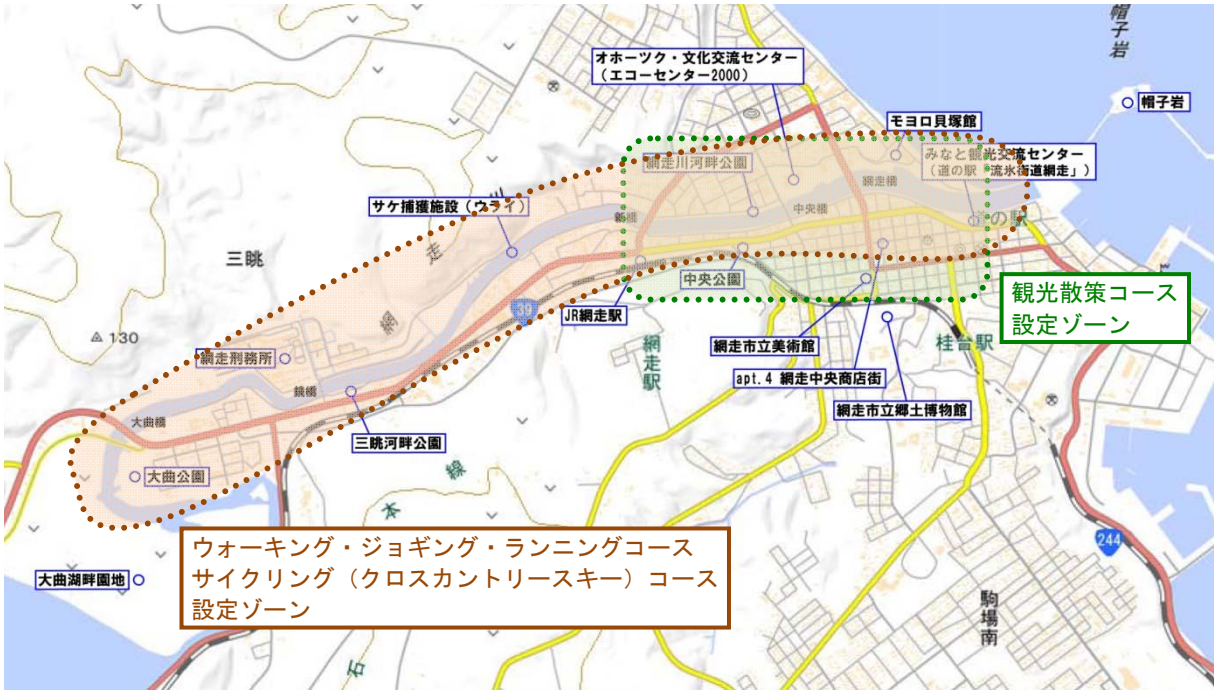
＜「網走市都市計画マスタープラン」におけるまちづくり構想＞



＜「網走市観光振興計画2014」における網走市の観光ゾーニングと観光機能＞

エリア	ゾーン区分	観光機能	観光客の楽しみ方
川筋地区エリア	まち歩きゾーン	網走中央商店街を中心とし、歩いて網走の街中探索が楽しめるゾーン。商店街活性化の取組みと連携し、夜の飲食店も含めて地域の人々との接点やコミュニケーションが楽しめるエリアを目指す。	商店街の賑わいと地域の逸品探し 商店や飲食店主とのふれあい 地域の飲食店での食の発見・堪能 宿泊し街歩きと食・ショッピングを楽しむ
	リバーサイドゾーン	網走川河口部を中心としオホーツク文化・交流センターやモヨロ貝塚、対岸の中心商店街、道の駅流水街道網走をネットワークする。 自然と歴史に恵まれた網走の街と河岸景観を堪能できるゾーン	網走川の流れと街、海の風景散策 モヨロ貝塚によるオホーツクの歴史・風土に対する学び
	オホーツク・ウォーターフロントゾーン	道の駅流水街道網走を核とし、オホーツク海に面する街網走を実感させるゾーン	砕氷船等のオホーツク流氷観光 オホーツクの物産購入・飲食スポット オホーツク広域観光の情報入手

ソフト施策の個別施策計画書

1. 河川名
網走川水系網走川
2. 提案事業の実施範囲
網走川 網走川河口地区
3. 提案事業の概要
・網走川沿いの河川管理用通路（散策路）の利用方法については、その利用者や利用目的に応じて異なるものであるという前提に立ち、観光目的の散策やウォーキング・ジョギング・ランニング・サイクリング（冬場のクロスカントリースキー）に対して利用者と利用目的に応じた利用プランを策定していきます。 ＜ソフト施策の概要＞ 【モデルコース・プランの設定】 様々な志向の人が好みに応じて気軽に参加・利用できるよう、多種多様なモデルコース・プランを設定します。 ①「観光散策コース」：網走川河口付近の観光・交流施設をゆっくり巡り、オホーツク海に面した海の雰囲気と網走川の雄大な流れを堪能する ②「ウォーキング・ジョギング・ランニングコース」「サイクリングコース（冬場のクロスカントリースキーコース）」：網走川周辺の美しい自然景観と網走市の街並みを体感する 【安全策の検討】 注意喚起の看板を用いて、利用ルールや安全に関する周知を行います。 【ICTを活用した情報提供】 スマートフォンのアプリ、QRコード、Wi-Fi を組み合わせた情報案内版により、モデルコースや各種施設（トイレ、コンビニ等）に関する情報提供方法を検討していきます。 【新たなイベントの企画】 網走川の河川管理用通路（散策路）や河畔公園、湖畔園地等を利用して、「網走サマーイルミネーション」等の既に実施されているイベントとのコラボレーション、防災、環境教育等の勉強会、ウォーキングと宝探し等を組み合わせたゲーム性の高いイベント、観光・交流施設と連携した水辺のイベント等の新たな企画も検討していきます。
(参考) 位置図
 ※「国土地理院地図」（国土地理院 Web サイト）を加工して作成

支援整備内容の概要（ハード施策）

1. 河川名
網走川水系網走川
2. 整備範囲
網走川 網走川河口地区
3. 整備内容
網走川 網走川河口地区水辺整備 【網走川沿いの上下流のアクセス確保】 網走川を横架している橋の橋台で分断されている上下流のアクセスを改善するよう整備を行い、網走川河口から大曲湖畔園地に至る動線を確保します。 【河川管理用通路（散策路）のバリアフリー化】 高齢者や障害者等が安全に利用できるようバリアフリー化を行い、網走川沿いの親水性向上を図ります。 【案内看板の設置】 見知らぬ土地でも安心して利用できるよう、周辺地図や主要な観光スポット、モデルコース等が記載された看板を設置します。海外からの観光客も想定し、外国語表記も取り入れます。 <ハード施策の実施内容> ・ 国：河川管理用通路（散策路）、取付道路の整備 ・ 市：案内看板（QR コード、Wi-Fi を組み合わせた情報案内版）、街灯、ボックスカルバート内の照明設備

ハード施策の個別整備計画書

1. 整備内容名

(1) 網走川沿いの河川管理用通路（散策路）の整備（ボックスカルバートによるアクセス確保）

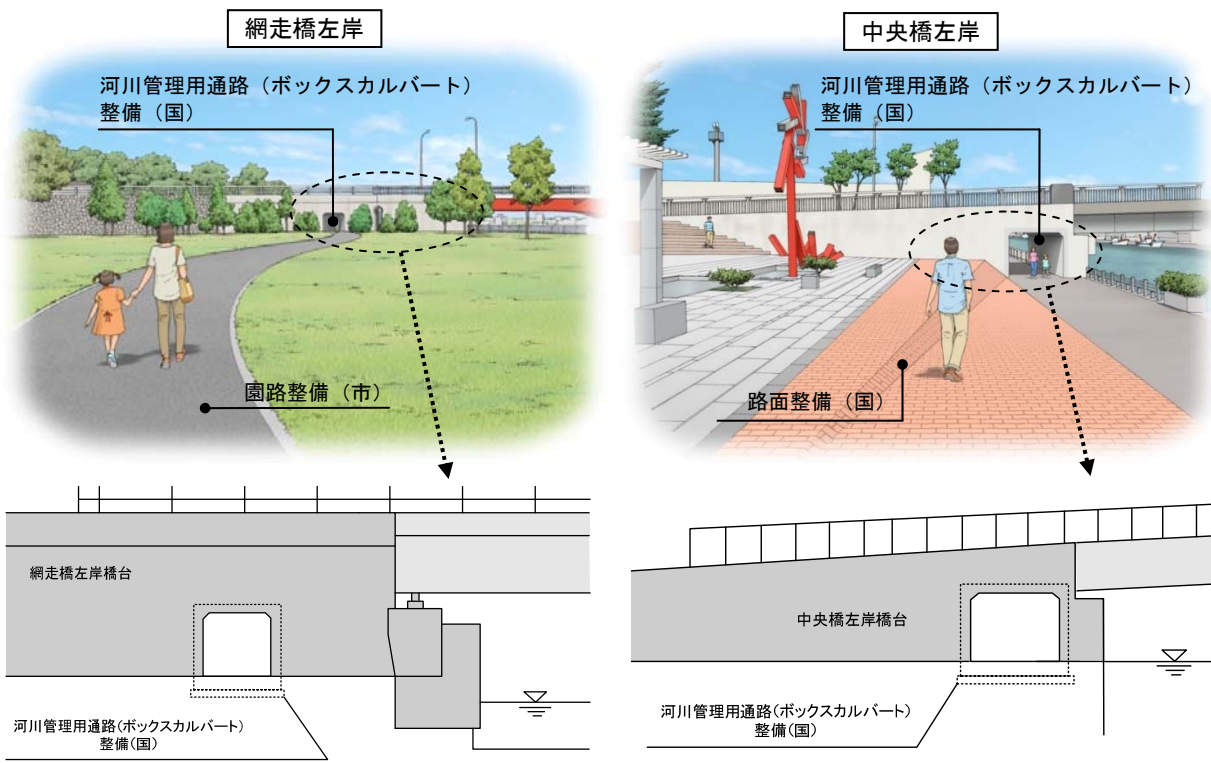
2. 整備概要

・整備箇所（位置図）



※「国土地理院地図」（国土地理院 Web サイト）を加工して作成

【ボックスカルバートの整備イメージ】



ハード施策の個別整備計画書

1. 整備内容名

(2) 取付道路の整備（バリアフリー化）

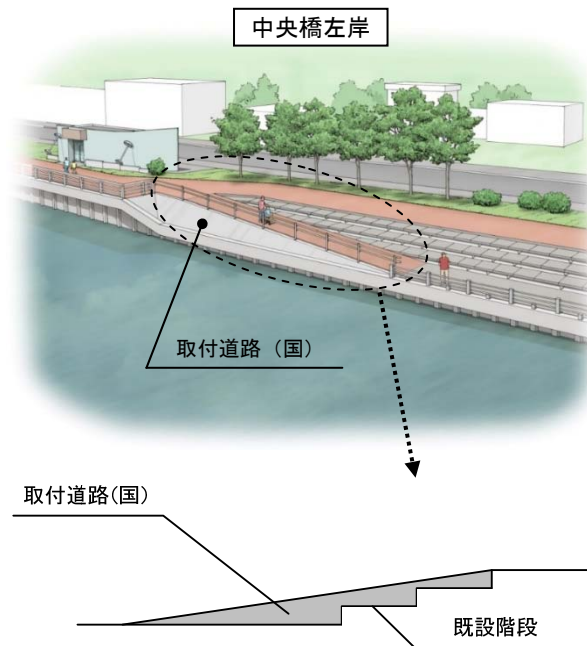
2. 整備概要

・整備箇所（位置図）



※「国土地理院地図」（国土地理院 Web サイト）を加工して作成

【バリアフリー化の整備イメージ】



ハード施策の個別整備計画書

1. 整備内容名

(3) 取付道路の整備（緩傾斜化によるアクセス確保）

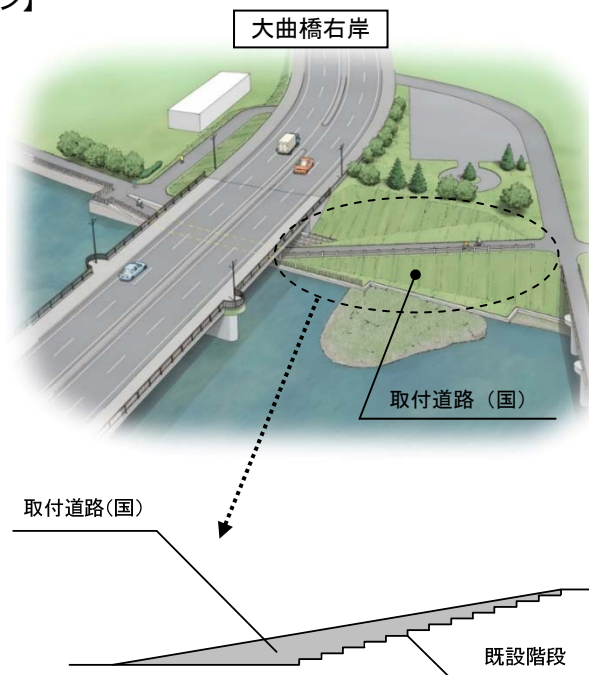
2. 整備概要

・整備箇所（位置図）



※「国土地理院地図」（国土地理院 Web サイト）を加工して作成

【緩傾斜化の整備イメージ】



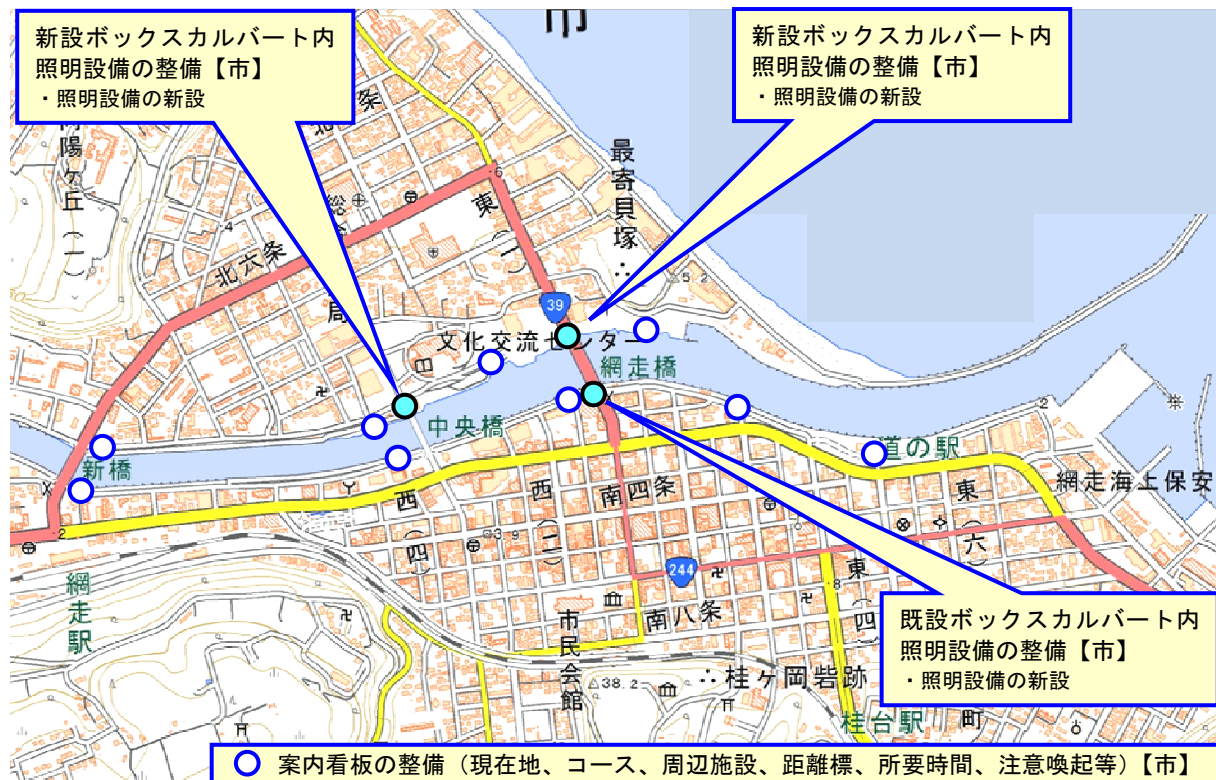
ハード施策の個別整備計画書

1. 整備内容名

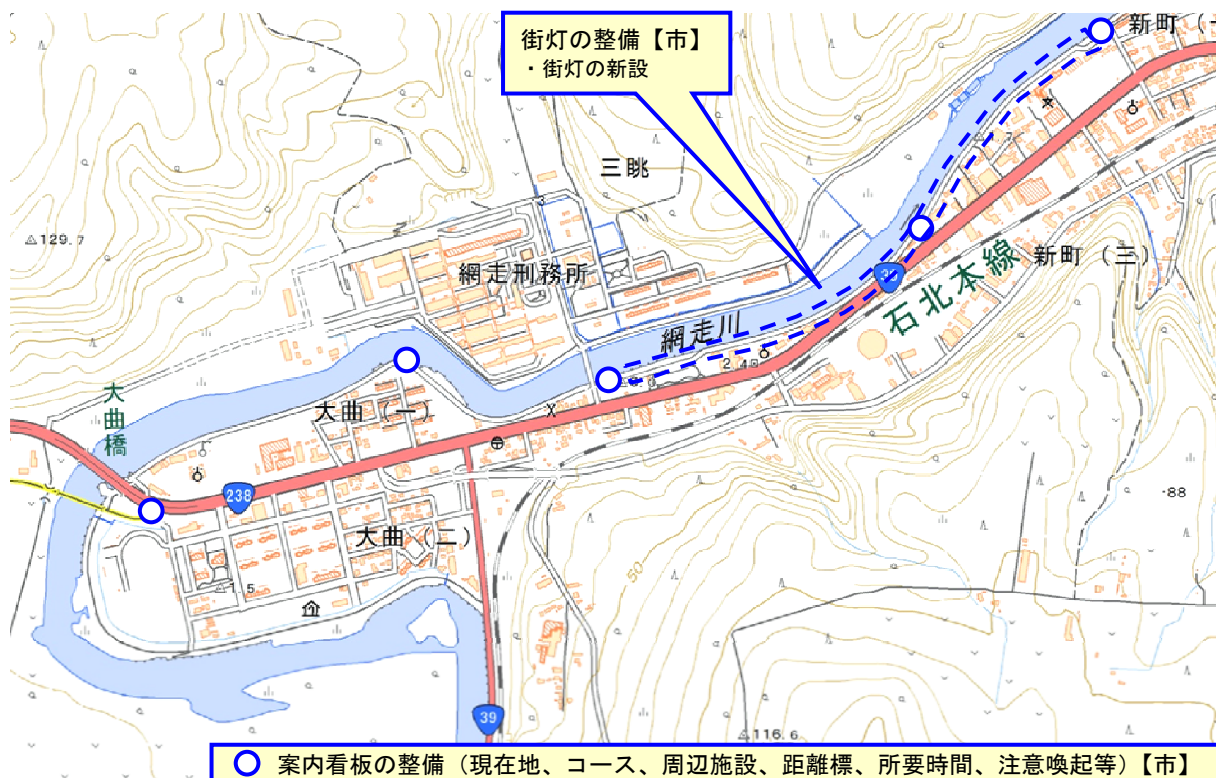
(4) 案内看板・街灯・ボックスカルバート内照明設備の整備（利便性の向上）

2. 整備概要

・整備箇所（位置図）



※「国土地理院地図」（国土地理院 Web サイト）を加工して作成



※「国土地理院地図」（国土地理院 Web サイト）を加工して作成

【案内看板のイメージ】



※「国土地理院地図」（国土地理院 Web サイト）を加工して作成

＜案内看板（現在地及びモデルコース）＞



＜案内看板（施設距離標）＞



＜案内看板（ルート距離標、所要時間）＞

3. 整備の必要性、有効性

網走市には、道東観光の際の通り道になっているという立地条件や、先史時代から続く特徴的な「歴史」と「観光資源（モロヨ貝塚館、オホーツク流水館等）」があり、オホーツク海に沈む夕陽や流水で覆われた大海原の絶景や、オオワシ・オジロワシ等の絶滅危惧種が生息する大自然など、魅力的な観光スポットが数多く存在します。

しかしながら、観光に係る多くの取り組みが観光スポット個別・単体での活動となっており、継続的な取り組みに繋がっていない、新たに整備すべきハード・環境が多くみられる、農林水産業等の多様な産業との連携や市民参画が課題となっています。

こうした課題を解決するためには、観光スポットや宿泊施設、公共交通施設等を結ぶ観光ネットワークを形成する必要があります。これにより、みなと観光交流センター（道の駅「流水街道網走」）等の主要な観光スポットに集まる観光客を市内の観光・交流施設へ誘導することが可能になります。また、誘導した先には、魅力ある観光コンテンツの存在が必要です。

「網走かわまちづくり検討会」で検討している様々なアイデアを実施可能にするためのハード整備（河川管理用通路の整備等）を行い、観光コンテンツを強化することで、多くの観光客に網走市の魅力を体験してもらうことが可能となります。

また、ハード整備に伴って網走川沿いの動線が網走川河口から大曲湖畔園地まで確保されることにより、ウォーキング・ジョギング・ランニング・サイクリング（冬場のクロスカントリースキー）等の利便性が向上し、地元住民による水辺空間のさらなる利活用と賑わいによる魅力アップが期待できます。

以上のように、網走市の観光や網走川の水辺空間利用が推進されることで、網走市の振興にも繋がることが期待できます。具体的には、雇用の創出、網走市産のものを買ってみたいという顧客の増加、移住希望者の増加、そして何より市民が郷土に誇りを持って暮らすことなどが期待できます。

4. 整備の実現方策

・関連事業の整備計画

「網走市総合計画」「網走市都市計画マスタープラン」に基づき、平成28年度から5ヶ年計画で、看板等の整備事業を計画しています。当該事業との一体的な整備により、賑わいのある魅力的な水辺空間の創出を図ることができます。

・整備工程

区分	整備内容	H28	H29	H30	H31	H32
網走市	案内看板・街灯・トンネル内照明	検討	設計	整備(工事)		
河川管理者	河川管理用通路・取付道路	検討	設計	整備(工事)		

5. 推進体制

網走市役所、NPO、地元住民、網走開発建設部等で構成する意見交換会の場として「網走かわまちづくり検討会」を設置し、地域の意向を踏まえた観光振興策の策定・具体化を行っています。今後の整備や利用についても、網走市役所を中心とした地域で一体となった体制で、関係機関や複数の専門家等の支援を得ながら推進していきます。

6. 有効利用および維持管理

①有効利用に関する計画

- ・網走市の恵まれた自然環境の中でオホーツク海を望む景観とそこへ流れ込む網走川の水辺空間を利用した観光散策・ウォーキング・ジョギング・ランニング・サイクリングコースを設定することで、交流人口の拡大を図ります。
- ・網走川の水辺空間にアクセスする動線のバリアフリー化・緩傾斜化を行うことで、高齢者や障害者の水辺空間へのアプローチが容易になり、年齢や障害の有無に関係なく様々な人々が憩い交流する機会が増え、網走川沿いの賑わい創出が期待されます。
- ・さらに、学校での野外授業等、河川管理用通路（散策路）の多目的な利用を促すことによって、新たな地域資源の創出を図ります。

- ・網走市のスポーツイベントである「インターナショナルオホーツクサイクリング」は、今後網走川沿いの河川管理用通路（散策路）のコース使用を予定しており、本整備によりコースとしての走行性が上がれば、大会や参加者の増加が期待されます。
- ・網走川沿いの賑わいが創出されることにより、河川管理用通路（散策路）の周辺の店（レストラン・カフェ等）の客足増加による地域振興を促す効果が期待されます。
- ・レンタサイクルの積極的な活用を促進するとともに、レンタサイクルの乗り捨てシステムを構築し、観光客が気軽に利用できる仕組みを民の知恵と力を積極的に活用して整備することが望ましく、利用者及び受け入れ側が一体となって合意形成された上で施策が実施できるよう、検討します。
- ・ハード整備後の PDCA について、地域協働でのフィールドチェックを行うことにより更なる改善策や教訓を得、より一層地域に根付いた取り組みとすることを目指します。あわせて、当該施設利用者（受益者）増加に向けた PR プランも検討していきます。

②維持管理計画

- ・河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理は、施設管理者が行います（国：河川管理用通路等）。
- ・河川等の占用に伴う占用物に対する日常的な維持管理・清掃に関しては、地元関係者と連携して網走市が実施します（市：看板等）。
- ・維持管理費用については、官民で分担して永続的に維持管理が可能となるよう、適切なライフサイクルコストを検討していきます。

7. 特徴

網走市の歴史と網走川は、深い関わりを持ってきました。遠くは先史時代から古代オホーツク人の住居跡としてモヨロ貝塚が確認されており、その歴史の深さがうかがえます。明治 30 年の北海道網走支庁の誕生に伴い屯田兵が入植し開墾を進め、開拓が網走川上流に広がったことを受けて林業が発達し、地域経済に潤いと勢いを与えるようになりました。木材は網走川を使って河口まで流送し、網走沖で待機する大型の木材積取船に搭載され、大阪、神戸方面に運ばれたと言われています。

現在では、木材流送は陸路の交通網整備に伴ってなくなり、林業は衰退しつつあります。また、博物館「網走監獄」、「天都山展望台・オホーツク流氷館」等の観光名所が数多くあるものの、観光入込客数は近年減少傾向にあり、古くからある地元商店街では集客力が失われ、閉店する店が増えています。

こうした活力を失いつつある状況において、過去から蓄積されてきた有形・無形の観光資源を有効活用した再整備を網走川と一体で実施することで、河川空間と商業・居住空間が一体となり、市民はもとより観光客にとっても魅力あるまちが創出され、かつての賑わいを取り戻すことが期待できます。特に、網走市では市民のボランティア活動が活発に行われており、網走川を中心とした観光振興を住民との協働により進めていくことが可能です。